コミュニティコーディネーター養成プログラム

神奈川大学

神奈川大学が株式会社AsMamaと協働し、学生向けコミュニティコーディネーター養成プログラムを開始。地域課題の解決に向け共助コミュニティづくりを推進するAsMamaとの課題共有をきっかけに始まった同プログラムは、民間同士の連携による共助コミュニティに対し産学連携で学生を地域の担い手として育成する、全国初のプログラムとなる（AsMama調べ）。人口減少が進む日本で地域の担い手育成と地元への愛着形成を両立するモデルケースとなることが期待される。

市政20周年記念ロゴ作成

崇城大学（熊本県）

崇城大学芸術学部デザイン学科の西田桜さんは、熊本県合志市の市政施行20周年の記念ロゴマークを制作し採用された。制作にあたり、合志市在住者の「子育てしやすい」という意見から子育て政策に着目。英名では「赤ちゃんの吐息」と呼ばれる、市内で生産が盛んであるカスミソウを取り入れた、親子がやさしく抱き合うイメージのロゴマークをデザインした。ロゴマークは今後、市のチラシやポスター、報道資料などにあしらわれる予定で、地域の魅力の発信を後押しする。

能登支援活動 記憶と想いをつなぐ

摂南大学（大阪府）

2025年に開学50周年を迎えた摂南大学は、記念事業として『「挑む、楽しむ。」プロジェクト』（愛称『むむプ』）を展開している。そのひとつである「能登×摂南プロジェクト（愛称 のわプ）」は、能登半島地震発生後に被災家屋等から回収された輪島塗を洗浄し、新しい持ち主に引き渡すことで、震災の記憶と持ち主の想いをつなぐことを目的に活動している。また、現地での経験を「輪島塗がつなぐ物語」という冊子にまとめ、被災地の現状を発信することで、復興支援の広がりにも貢献している。

伝統工芸の端材で傘のハンドルカバー

金城学院大学（愛知県）

金城学院大学国際情報学部の学生が手がける傘のハンドルカバー「Rella（レラ）」。有松絞りの端材を活用し、伝統文化を身近に感じられるデザインに仕上げた。ビニール傘の使い捨て防止、地場産業の活性化、障がい者の継続的な就労支援の3つの社会課題に取り組む産学連携SDGsプロジェクトで、学生が企画から販売まで担当。機能性とデザイン性を兼ね備えた、社会に優しいアイテムとなっている。

学生が主体となり地域と人を結ぶ！

弘前学院大学（青森県）

弘前学院大学のヒロガクインクルージョンサークルでは、ボランティアを通じて、知的障がい者、高齢者、そして幅広い世代との交流を通じて、つながりを大切にしている。活動目標は、多世代交流と健康増進。具体的には、障がい支援施設で作られた津軽塗りの伝統工芸品やパンなどの物品を学内で販売し、地域との交流を深めている。また、地域住民と共に認知症について学ぶカフェを運営し、さらに「出張カフェ」では、学生が講師となり、音楽体操や連想ゲームを行い認知症予防に取り組んでいる。知的障がい者とは、買い物学習や運動、カラオケ、調理活動、パソコン学習などを行っている。これらの活動を通じて、地域社会への貢献と、世代を超えた豊かな交流を目指している。

学生のアイデアで区役所が変わる！ 感動区役所プロジェクト

西日本工業大学（福岡県）

西日本工業大学デザイン学部情報デザイン学科の中島研究室と八幡東区役所の職員がコラボし、昨年9月から「感動区役所プロジェクト」を開始した。庁舎内でのフィールドワークや意見交換を重ねながら、明るく清潔感のあるトイレ、わかりやすい案内、窓を利用したアートなどを3月末に実装することができた。さまざまな制約から実現できなかったアイデアについても課題を乗り越える工夫によりこれから実現させようと考えている。

地域の小中高校生と語学で交流

関西外国語大学（大阪府）

関西外国語大学では、教員を目指す学生が中心となり、留学生と共同で、地域の小中高校を訪問して語学学習やプロジェクトを支援する活動を行っている。2024年度の児童・生徒との交流活動は10件を越える。学校側は留学生と直に触れ合うことができると好評、参加した学生からは「国際教育や多文化間の教育を実践できる貴重な機会だ」との感想が聞かれた。地域への貢献活動として取り組みを進めていく。

「わかやま学」を学び、和歌山の看護力に貢献

東京医療保健大学

東京医療保健大学和歌山看護学部では、開校以来、「わかやま学」を1年生全員が受講する。この講義で、和歌山県知事や和歌山市長をはじめ地元有識者から和歌山の健康、医療だけでなく、社会、経済、文化、歴史のことを学ぶ。その結果、学生のボランティア活動も活発で、また卒業生の県内就職率は、84%以上と極めて高い水準で推移し、和歌山の地域課題を認識しつつ高い志を持って、看護職として地域医療に貢献している。

絵本サロンを開設し団地の賑わい創出

名城大学（愛知県）

名城大学と名古屋市は、2022年に「定住促進住宅の入居促進に関するモデル事業に関する確認書」を締結。団地の高齢化・空き家の課題に対し、理工学部建築学科の谷田真研究室が同市天白区の定住促進住宅「一つ山荘」で、子育て世帯を支援する「一つ山荘絵本サロン105」を開所した。家具等は学生がDIYで製作し、地域図書館の協力も得て、多くの絵本に囲まれる空間に。週3回程度、学生も常駐し、地域住民や子供たちと交流し、団地の賑わい創出に貢献している。

アートパーク

聖徳大学（千葉県）

聖徳大学と近隣の保育園、中学校、まちづくり関係団体、アーティスト、松戸市が一丸となり、松戸中央公園で2008年から行っているアートプロジェクトがある。親子対象のワークショップを企画・実践し、子どもも大人も思いっきり遊んでみることで子どもの遊びの重要性を考える機会としている。活動を通して、地域の課題に目を向け、公園の新たな利用法を含めた提案など地域の活性化に貢献している。

学生が地域企業の魅力を取材し発信！

京都文教大学

京都文教大学の学生は、宇治商工会議所の会員向け広報誌に、地元企業紹介記事を取材のうえ発信している。2024年度は、地域連携活動を行う5つの学生チームが宇治市内の6つの企業を取材した。取材先は会員企業から学生が選ぶ。会社の成り立ちや力を入れていることなどをインタビューし、心に残ったことを中心にまとめた記事は、会員企業に好評だ。年度末には、参加学生と取材先企業とが一堂に会し、記事作成の報告とワークショップを行い、更なる交流を深めている。

DXフィールドで地域社会の課題解決に寄与

大阪工業大学

2025年3月、大阪工業大学枚方キャンパスに完成した大規模実証実験施設「DXフィールド」は、AIやソフトウェアで制御されたドローンやロボットの社会応用実験など、ITで人々の生活をよくするためのデジタル技術に関するさまざまな実証実験が可能な施設である。同施設の新設を契機に、社会課題解決のためのDX推進に関する連携協定を枚方市、北大阪商工会議所、枚方信用金庫と締結し、産官学の共同研究での利活用を進めるとともに、学生を中心とした教育・研究活動の推進と地域経済の活性化に取り組んでいる。

地域貢献する大学